

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月21日

【四半期会計期間】 第58期第1四半期（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）

【会社名】 石垣食品株式会社

【英訳名】 ISHIGAKI FOODS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 石垣 裕義

【本店の所在の場所】 東京都千代田区飯田橋1丁目4番1号

【電話番号】 03-3263-4444

【事務連絡者氏名】 経理部経理課課長 小西 一幸

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区飯田橋1丁目4番1号

【電話番号】 03-3263-4444

【事務連絡者氏名】 経理部経理課課長 小西 一幸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成26年8月12日に提出いたしました第58期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）の四半期報告書の記載事項に一部誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第2 事業の状況

#### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュフローの状況の分析

##### (1) 経営成績の分析

#### 第4 経理の状況

#### 1 四半期連結財務諸表

##### 注記事項

##### (セグメント情報等)

##### セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

##### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_を付して表示しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第2 【事業の状況】

#### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 経営成績の分析

###### (訂正前)

当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業が減収減益、珍味事業は黒字化を果たしたものの減収で、利益も低水準にとどまったことから、売上高150百万円（前年同四半期比17.9%減）、営業損失10百万円（前年同四半期は営業損失6百万円）、経常損失10百万円（前年同四半期は経常損失5百万円）、四半期純損失10百万円（前年同四半期は四半期純損失1百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

###### 飲料事業

販売競争の厳しい麦茶に加え、昨年テレビの健康番組で紹介され一時的なブームが発生した杜仲茶、一昨年のブームからの大きな反動が続くごぼう茶、烏龍茶ともに減収となり、売上高75百万円（前年同四半期比20.2%減）となりました。

損益面でも、生産量減少に伴う採算悪化により減益となり、営業利益14百万円（前年同四半期比24.6%減）となりました。

###### 珍味事業

ビーフジャーキーは、既存商品の競争激化、春に投入した新商品が期待したほど増収効果を発揮しなかったことから減収となり、売上高72百万円（前年同四半期比15.9%減）となりました。

損益面では、前期後半に実施した内容量減少に伴う実質値上げと、原材料の切替えが奏功して黒字化を果たしましたが、円安による採算悪化は如何ともし難く、営業利益3百万円（前年同四半期は営業損失4百万円）と、低水準の利益にとどまっております。

###### その他

業務用ナルトが前年を大幅に上回る好調となったことから、売上高1百万円（前年同四半期比10.4%増）、営業利益0百万円（前年同四半期比147.0%増）となりました。

###### (訂正後)

当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業が減収減益、珍味事業は黒字化を果たせなかったことから、売上高150百万円（前年同四半期比17.9%減）、営業損失10百万円（前年同四半期は営業損失6百万円）、経常損失10百万円（前年同四半期は経常損失5百万円）、四半期純損失10百万円（前年同四半期は四半期純損失1百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

###### 飲料事業

販売競争の厳しい麦茶に加え、昨年テレビの健康番組で紹介され一時的なブームが発生した杜仲茶、一昨年のブームからの大きな反動が続くごぼう茶、烏龍茶ともに減収となり、売上高75百万円（前年同四半期比20.2%減）となりました。

損益面でも、生産量減少に伴う採算悪化により減益となり、営業利益10百万円（前年同四半期比48.6%減）となりました。

###### 珍味事業

ビーフジャーキーは、既存商品の競争激化、春に投入した新商品が期待したほど増収効果を発揮しなかったことから減収となり、売上高72百万円（前年同四半期比15.9%減）となりました。

損益面では、前期後半に実施した内容量減少に伴う実質値上げと、原材料の切替えが奏功して採算は若干改善しましたが、円安による採算悪化は如何ともし難く、営業損失0百万円（前年同四半期は営業損失4百万円）となりました。

###### その他

業務用ナルトが前年を大幅に上回る好調となったことから、売上高1百万円（前年同四半期比10.4%増）、営業利益0百万円（前年同四半期比71.4%増）となりました。

## 第4 【経理の状況】

### 1 【四半期連結財務諸表】

#### 【注記事項】

(セグメント情報等)

#### 【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(訂正前)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	飲料事業	珍味事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	75,904	72,887	148,791	1,527	150,318		150,318
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	75,904	72,887	148,791	1,527	150,318		150,318
セグメント利益又は セグメント損失( )	14,877	3,072	17,950	475	18,426	28,795	10,369

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ナルト事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 28,795千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用28,795千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(訂正後)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	飲料事業	珍味事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	75,904	72,887	148,791	1,527	150,318		150,318
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	75,904	72,887	148,791	1,527	150,318		150,318
セグメント利益又は セグメント損失( )	10,131	995	9,136	330	9,466	19,835	10,369

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ナルト事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 19,835千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用19,835千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。